

さいたま赤十字病院 院外報

かがやき

FREE
ご自由に
お持ちください

Vol. 65
令和 6 年度
2号



Contents

【病院創立 90 周年特集】

病院長挨拶	P2-3
これまでのあゆみ	P4-5
▶お仕事紹介コラム(感染管理室)	P6
▶連携医療機関紹介	P7
▶防災ヘリコプター 離着陸訓練	P8



さいたま市立博物館提供

日本赤十字社埼玉支部療院（昭和9年）

創立90周年を迎えました

院長 清田 和也

設立当初の姿

当院は「日本赤十字社埼玉支部療院」として5つの診療科を擁する全77床の病院として、1934（昭和9）年に設立されました。当時カラー写真はないので正確には分かりませんが、赤い屋根に白亜のリゾートホテルのような瀟洒な建物であったようです。埼玉県で最も大きく、また最先端を行く病院ができたということで、病気でもないのに多くの人が見物に訪れたといえます。

当時制作された大宮鳥瞰図という、パノラマ風の観光案内図が残されており、この中に日本赤十字社埼玉支部療院も描かれています。作者は吉田初三郎という、大正の広重と称された絵師で、鉄道の発達に伴う観光ブームと相まって大層人気を博したということです。この大宮鳥瞰図は、さいたま新都心駅の反対側にあるショッピングモール、コクーン2の3階フロアに展示してありますので、興味のある方は探してみてくださいと思います。

開院記念日を7月第1水曜日に

5月15日を永らく開院記念日（休診日）としていました。しかしながら5月15日は院長を始めとした職員の任命日であり、実際には7月3日に開院式、7月6日に内科、外科皮膚泌尿器科、産婦人科、小児科、耳鼻咽喉科の5科で診療を開始したとされています。

また5月はゴールデンウィークがあり長い休みの後に再び休日となる難がありました。昨年より開院記念日を実際に診療が開始された7月第1水曜日に移動しました。



当時の病院幹部が開院記念日に氷川神社を参拝（昭和45年）

“与野”、“大宮”、そして“さいたま”へ

1943(昭和18)年、与野赤十字病院に名称変更されましたが、京浜東北線の与野駅からは徒歩で30分以上の距離があり、与野駅で降りた患者さんから多数の苦情が寄せられたことから、最寄りの駅が大宮駅であることに因んで、1947(昭和22)年に大宮赤十字病院を名乗ることになりました。この大宮赤十字病院の時代が半世紀以上続くことになり、さいたま赤十字病院となった今でも、大宮日赤と呼ぶ方も多くいらっしゃいます。

大宮赤十字病院に名前を変えた途端、本館が火災によって焼失したため、再建、その後増築を繰り返し、本館第1~3病棟の形が三代目となりました。2001(平成13)年に3市(浦和・大宮・与野)の合併によりさいたま市が発足し、2003(平成15)年に政令指定都市となったのを機に当院もさいたま赤十字病院と名称を変えました。そして創立83年目の2017(平成29)年にして初めての移転を経て、現在の姿が四代目ということになります。

地域に求められ、愛される病院を目指して

さいたま新都心医療拠点に移転して7年が経過しました。高度救命救急センターや総合周産期母子医療センターへとそれぞれバージョンアップし高度急性期機能をさらに明確化し、5疾病6事業を中心とした高度急性期医療が当院の役割であると位置づけ取り組んで参りました。

5 疾病

- がん
- 精神疾患
- 脳卒中
- 急性心筋梗塞
- 糖尿病

6 事業

- 救急医療
- 災害医療
- へき地医療
- 周産期医療
- 小児医療
- 新興感染症対応

地域のみなさまに90年という長きに渡りご支援をいただきました。これからも地域から求められ、愛される病院を目指して参りますのでどうぞよろしく願いいたします。



第6回病院開院記念日(昭和16年)



焼け跡に立つ当時の院長(昭和22年)



三代目の病院全景(昭和33年)



特集

さいたま赤十字病院創立

創立以降の当院の変遷や、さいたま新

1934

昭和 9 年

創立

「日本赤十字社埼玉支部療院」という名称で埼玉県北足立郡与野町大字上落合に開院。



開院当初の姿

1947

昭和 22 年

3月、「大宮赤十字病院」に改称。しかし不幸にも11月に本館及び第1病棟が失火により焼失。

1951

昭和 26 年

火災に罹災した病棟を再建築



復興後の本館

2003

平成 15 年

浦和市・大宮市・与野市 3市の合併及び政令指定都市への指定を機に「さいたま赤十字病院」に改称。



1940

昭和 15 年

「日本赤十字社埼玉支部与野療院」に改称

1943

昭和 18 年

「与野赤十字病院」に改称



1980

昭和 55 年

新病棟（本館診療棟）及び埼玉県救命救急センターの建築・稼働



落成式



大宮赤十字病院正面

火災からの復興

出火の原因は溶接工事中の強風。本館の全焼は大きな損害をもたらしたが、患者の収容のため近隣の旅館の借用、焼け跡から使用に耐える物品を收拾したことで翌日から診療を再開することができた。また街頭募金や市町村役場への呼びかけを通じて再建資金を調達し、復興を遂げた。



大宮駅前での募金



復興の地鎮祭

苦難を乗り越え発展期へ

長く苦しかった太平洋戦争や火災を乗り越え、当院は長い「大宮赤十字病院」時代を経ることに。創立当初の病床数は77床であったが病棟の増築や改造を重ね、救命救急センターを含む本館が完成した昭和55年5月には643床の病床を持つ、県下有数の総合病院へと発展した。



大宮赤十字病院全景（昭和59年）

90周年記念 これまでのあゆみ

都心移転後の主な出来事についてご紹介いたします

2011
平成 23 年

東日本大震災 救護班派遣



避難所の様子



震災時の当院

2017
平成 29 年

1月1日にさいたま新都心へ全面移転。



朝のブリーフィング



患者さんを新病院へ移送

2024
令和 6 年

能登半島地震 救護班派遣



出発式



避難所で診察をする医師



2016
平成 28 年

熊本地震 救護班派遣



薬の説明を行う薬剤師

医師や看護師を救急現場へ運ぶドクターカーの運用開始



初代



現在

2020
令和 2 年

新型コロナウイルス感染症対応は中国武漢市からの帰国者やダイヤモンド・プリンセス号下船者の対応から始まり、不足する防護服のやりくりをしつつ病棟再編による受け入れ体制の整備に奮闘。

さいたま新都心へ移転

全面移転に向け、前年10月から内覧会、物品搬送、患者移送リハーサルなどを実施。患者移送リハーサルは予定通りに進まず難航したものの、当日移送は無事完了し、新しい医療拠点さいたま新都心で開業することとなった。



創立 90 周年

おかげさまで当院は令和6年7月をもって創立90周年を迎えました。90年の歴史を持つ病院としてこれからも地域に貢献し、将来にわたり持続可能な病院運営を行ってまいります。引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。



感染管理室をご存知でしょうか？

当院の感染管理室は、平成 29 年 10 月に院内感染の予防と制御に関する専門部署として病院長直属の組織として設置されました。感染管理室では、患者さんやご家族、病院で働く全ての職員を、院内で発生する感染症から守るために日々活動しています。室員は、感染制御のために必要な専門知識を備えた、医師・看護師・薬剤師・検査技師・事務員で構成されており、ICT（感染対策チーム）およびAST（抗菌薬適正使用支援チーム）としても活動をしています。

今回は感染管理室の業務について、院内と院外に分けて一部ご紹介いたします。

感染管理室メンバー



医師



看護師



薬剤師



検査技師



事務

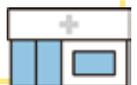
院内での業務

院内における感染症の発生状況や、原因に関するデータを継続的かつ組織的に収集し分析することで、感染対策の評価や改善に活かしています。また、アウトブレイク（通常のレベルを超えて感染症が発生）を早期に察知して、速やかに介入しています。実際の介入では、当該部署への情報共有と指導だけではなく、感染対策の実施状況についても直接確認を行い、院内の感染防止に努めています。加えて、院内ラウンドを週 1 回実施しており、療養環境の整備状況や院内感染対策の実施状況を確認する等、改善に向けた指導も行っています。



院外での業務

院外では主に、地域の感染対策向上を目指し、近隣の医療機関や行政機関と定期的にカンファレンスを行っています。カンファレンスでは、感染症の発生状況や抗菌薬の使用状況、手指消毒使用量の推移などを各医療機関と情報共有するとともに、改善に向けたディスカッションをしています。また、定期的に他施設との相互査察も行っており、双方で感染対策に関する助言をしています。



感染管理室の業務は多岐にわたりますが、今後も室員一丸となって医療関連感染防止に努めていきます。引き続き、感染対策へのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

感染管理室 飛川 春樹



連携医療機関紹介

当院では地域医療支援病院としての責務を果たすべく、地域のかかりつけ医の先生方からの紹介患者さんに対し、専門的な治療や救急医療の提供を行っております。

ここでは当院の心強いパートナーである医療機関をご紹介します。



クリニック あさかわ内科クリニック (かかりつけ医)



院長：浅川 喜裕

住所：さいたま市中央区上落合 5-17-1
S4タワー 1F

TEL：048-851-2225

診療科：内科・循環器内科

休診日：水曜午後・土曜午後・日祝



※詳細についてはホームページをご覧ください。

<https://asakawa-naikaclinic.com>

幅広い診療

さいたま赤十字病院循環器内科に長年勤務し培った循環器疾患の診療だけでなく、高血圧・糖尿病・高コレステロール血症などの生活習慣病、そのほか幅広い診療をスタッフとともに丁寧に行うように心がけています。

さいたま赤十字病院との連携

入院治療・精密検査などが必要な場合にお願するばかりではなく、病状の安定した方々の外来診療をお引き受けします。その後も病院の先生と連携をとり、病院とクリニックそれぞれに主治医がいる、そんな連携を目指しています。

地域のみなさまへ

専門の循環器疾患だけでなく、地域の「かかりつけ医」としてみなさまに寄り添った診療を行っていきたく考えています。些細なことでもお気軽にご相談ください。



連携病院 医療法人社団松弘会 三愛病院



院長：済陽 義久

住所：さいたま市桜区田島 4-35-17

TEL：048-866-1717 (代表)

診療科：内・循内・消内・糖内・外・呼外・心外
整・脳外・形・皮・泌・眼・耳・放・麻
リハ・歯・口外



※詳細についてはホームページをご覧ください。

<https://sanai.or.jp/>

「内視鏡・放射線治療センター」の開設

昭和 60 年に 54 床で開設後、現在は 199 床まで増床いたしました。最近のトピックスとしては、「内視鏡・放射線治療センター」の開設があります。

最新型のバイブレーション血管撮影装置を導入、既存の装置と併せて2台体制となり、緊急時に並列治療が可能となりました。また内視鏡センターでは、3列での検査が可能となり、健診等柔軟に対応可能となっております。



陽まわりメディカルクリニック開院

JR 武蔵浦和駅前に「陽まわりメディカルクリニック」を開院いたしました。これにより、当法人の経営理念の1つである「地域を愛する心」を礎に、さいたま市南部の地域医療の充実に寄与できればと考えております。

防災ヘリコプター 離着陸訓練



当院では、埼玉県防災航空センターと屋上ヘリポート離着陸訓練を毎年実施しています。今年度は、令和6年6月5日に1回目の屋上ヘリポート離着陸訓練を実施しました。

この訓練は、管轄消防本部からの要請により、負傷者や転院搬送患者を引き継ぐ際に病院の屋上ヘリポートに離着陸することを想定した訓練になります。基幹災害拠点病院であり、高度救命救急センターでもある当院が迅速な患者の受入れ、他病院へ患者を搬送するためには欠かせない訓練となっています。

そのため、訓練当日は普段とは異なり少し騒がしくなったと思いますが、皆さまの安心安全に資する訓練になりますので、特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

施設課
和田 真



さいたま赤十字病院の理念

赤十字の人道・博愛の精神に基づき、信頼される医療をおこないます。

さいたま赤十字病院の基本方針

1. 患者さんの権利を尊重します。
2. 地域との円滑な医療連携に努めます。
3. 医療の質の向上に努め、安全な医療を提供します。
4. 優れた医療人の育成に努めます。
5. 健康経営を推進し、働きやすく活気あふれる職場作りに努めます。
6. 国内及び国外での医療救援活動に積極的に参加します。

患者さんの権利

1. 公平で適切な医療を受ける権利
2. 個人の尊厳が保たれ、人権を尊重される権利
3. プライバシーが守られ、個人情報保護される権利
4. わかりやすい言葉で検査や治療などの説明を受ける権利
5. 自己の決定権が確認され、医療行為を選択する権利
6. 安全・安心な医療を受ける権利
7. 他施設の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞く権利
8. 自己の診療記録等の開示を求める権利

患者さんに守っていただく事項

1. 健康に関する情報を医師や看護師等にお知らせください。
2. 医療行為については、納得したうえで指示に従ってお受けください。
3. 病院内ではルールを守り、他の人に迷惑にならないよう行動してください。
4. 診療費の支払い請求を受けた時は、速やかにお支払いください。